

令和4年度 道・絆プロジェクト 三陸復興国立公園 観光PRブース出展事業

記憶と再生の物語は、より確かな未来へ。



1 目的

当協会は、三陸復興国立公園の利用促進と観光客の誘致拡大を目的に活動し、本事業は、宮古盛岡横断道路や三陸沿岸道路の全線開通によって繋がる青森県、岩手県、宮城県からの個人旅行者を誘客するためにショッピングセンター等において観光PR活動を行うもの。
そして、旅行意欲や嗜好に関するアンケート調査を併せて実施し、誘客戦略策定にも役立てる。

2 実施体制

〈主たる実施団体〉

■三陸復興国立公園協会（事務局：岩手県宮古市）

〈協力〉（会員）

■八戸市 ■階上町 ■久慈市 ■野田村 ■普代村 ■田野畑村 ■岩泉町 ■宮古市 ■山田町 ■大槌町 ■釜石市 ■大船渡市 ■陸前高田市
■気仙沼市 ■南三陸町 ■女川町 ■石巻市 ■三陸鉄道（株） ■岩手県北自動車（株）

3 実施内容

- (1) 三陸復興国立公園協会観光PRブース出展（八戸会場）
 - ・実施日 令和4年11月19日（土）10時00分～17時00分
11月20日（日）10時00分～15時00分
 - ・会場 八食センター（青森県八戸市）
 - ・参加者 619人（アンケート回収数）
- (2) 三陸復興国立公園協会観光PRブース出展（仙台会場）
 - ・実施日 令和4年12月9日（金）10時00分～17時00分
12月11日（日）10時00分～15時00分
 - ・会場 JR仙台駅構内2階「駅たびコンシェルジュ」内
 - ・参加者 1,194人（アンケート回収数）
- (3) 三陸復興国立公園協会観光PRブース出展（盛岡会場）
 - ・実施日 令和5年3月4日（土）10時00分～15時00分
3月5日（日）10時00分～15時00分
 - ・会場 イオンモール盛岡 1階さんさ広場
 - ・参加者 666人（アンケート回収数）

- 【内 容】
- ・アンケート抽選会・三陸沿岸道路に係るパネル展示
 - ・各市町村のパンフレット配布（景勝地及び道・絆プロジェクトロゴマーク入りビニール袋に入れ配布。）
 - ・特産品販売会・マリンアクティビティ紹介（盛岡会場のみ）

4 成果品・周知方法など

道・絆プロジェクト支援金を活用し、三陸復興国立公園内市町村の景勝地及び道・絆プロジェクトロゴマーク入りのビニール袋を作成した。
また、イベントチラシの作成及び抽選会に係るチラシを作成し、会場内での配布、掲示を行いイベント誘客を図った。



抽選会用チラシ



抽選会チラシ

5 実施状況（写真）



アンケート調査
（八戸会場）



抽選会・PR活動
（八戸会場）



物販ブース・ゆるキャラ
（八戸会場）



アンケート・抽選会
（盛岡会場）



三陸沿岸道路のPR
（仙台会場）



各市町村の物販販売
（仙台会場）



会場の様子（仙台会場）



マリンアクティビティPR
（盛岡会場）

6 総評

- すべての会場において多くの方に抽選会に参加いただき、三陸復興国立公園のPRと併せ、三陸沿岸道路を活用した周遊観光のPRや開通・復興の状況について説明を行うことができた。
- 八戸会場では来場者の約6割が青森県内、仙台会場でも来場者の約5割が宮城県内の方であり、地元の方以外にも広くPRすることができた。
- アンケートでは三陸沿岸道路について、関心を持っている方が非常に多く、「コロナが落ち着いたら、三陸沿岸道路を利用しているいろいろなところに行ってみよう」といった声が多く聞かれたほか、三陸沿岸道路を利用した経験がないという回答も多数あったことから、今後も継続して道路の利便性及び三陸周遊観光について発信していく必要があると感じる。
- 今後、三陸沿岸道路等を利用した周遊観光をPRしていく上で、「三陸復興国立公園」の認知度の向上、観光客誘致のために今回のようなPRイベントのほか、モニターツアーやインターネット広告、情報誌、テレビ・ラジオの情報番組等で、より一層のPR活動が必要である。

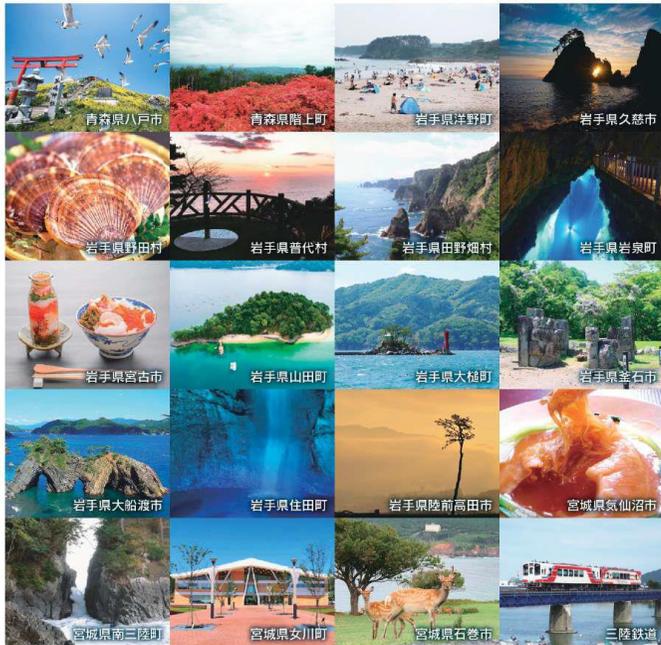
サイズ:タテ400mm×ヨコ250mm



記憶と再生の物語は、より確かな未来へ。

三陸復興国立公園

SANRIKU
FUKKO
NATIONAL
PARK



東北 復興道路 ～道・絆プロジェクト～

